

平成 28 年度 がん対策情報センター「患者・市民パネル」の募集案内

国立がん研究センターがん対策情報センターでは、わが国におけるがん対策の総合的かつ計画的な推進のために、患者さんやその家族、一般市民の皆さまの視点を取り入れていくことが不可欠であるという認識から、平成 20 年度より、がん対策情報センター「患者・市民パネル」を募集して活動を行っております。このたび、平成 28 年度の募集を行うこととなりました。

活動の内容および応募資格などは、次のとおりです。

【主な活動の内容】

- 1) 患者・市民の立場から、課題やアンケート調査などに対する意見をいただいたり、調査に回答していただくこと
- 2) がん対策に関わる活動(講演会などの案内など)を広報していただくこと
- 3) パンフレットやウェブページの情報の見やすさ、わかりやすさなどのチェックなど
- 4) 意見交換会などの会議への出席(交通費を支給します)

※年度によって、具体的な依頼の内容は変わります。

【応募資格】

『患者・市民パネル』に応募するには、がん対策への関心・熱意・見識を持った成人で、次の 4 つの条件をすべて満たしていることが必要です。ただし、国会議員および地方公共団体の議会の議員、常勤の国家公務員を除きます。また、これまでに 4 年以上「患者・市民パネル」を経験された方は選考の優先度が下がることがありますので、ご了承ください。

(1) 下記(a)(b)のいずれかに該当する方

(a) がん患者、もしくはがん経験者、または現在もしくは過去においてがん患者の家族、介護者、がん患者のサポートに携わったことのある方、もしくは携わろうとしている方

(b) 上記(a)には該当しないが、適切ながん情報の普及啓発に関心のある方

(2) がん対策情報センターの活動を理解し、医療専門家と患者・一般市民の双方の立場を踏まえた活動ができる方

(3) 多様な人々と協調し、日本語でうまくコミュニケーションをとれる方、調整できる方

(4) 単独または、家族の支援により、インターネット・パソコン・電子メールを使うことができる方

また、患者・市民パネルの活動を遂行するため、以下の 3 つの条件を満たすことが望まれます。

(1) がん、地域、患者の支援活動に貢献する意思があること

(2) がんに関連する情報を収集、発信する能力があること

(3) わかりやすい文書を作成する能力があること

なお、がん以外の病気や障害をお持ちで、事務局で配慮すべき事項がある場合には、どのような配慮が必要であるのかについて適切に伝えていただくようご協力をお願いいたします。

【募集人員】

50 名程度

【依頼期間】

平成 28 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの 2 年間

【身分・謝礼金など】

国立がん研究センター理事長より依頼を行います。

意見交換会などの出席に伴う交通費および年間の活動に対する謝金を支給します。

【応募方法】

所定の書式に記載事項を記入の上、以下のいずれかの方法でご応募ください。

(1)電子メール: Panel-oubo@ml.res.ncc.go.jp

・応募書式を添付ファイルとしてお送りください

・メールの件名は「応募:患者・市民パネル ●●●●(←ご氏名)」としてください

・応募書式以外のデータの添付はご遠慮ください

(2)郵送:〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センターがん対策情報センター

「患者・市民パネル」事務局あて

・応募書式に記入の上、プリントアウトしたものをお送りください

・封筒に朱書きにて「患者・市民パネル応募書類在中」とお書きください

・応募書式以外の資料の添付はご遠慮ください

【提出書類】

所定の書式を利用し、下記について作成してください。応募書式はがん情報サービス (<http://ganjoho.jp/>) からダウンロードできます。

1. 応募願書

(1)氏名(ふりがな)、性別、生年月日、年齢、住所(郵便番号)、電話番号、電子メールアドレス(携帯メールアドレス不可)

(2)勤務先の名称、役職名、電話番号(学生は学校、学部名)、得意な分野

(3)医療・福祉関係の資格

(4)がんとの関連

(例) (ア) がん当事者、(イ) がん患者の家族、(ウ) ○○を通して介護の経験あり

(5)(4)で(ア)(イ)の場合は、そのがん種

(6)がん患者会への参加の有無

(7)がん、地域、患者の支援活動の有無(過去3年以内)

(例) 平成○年 ○○患者会の運営

(8)これまでにがん対策情報センター「患者・市民パネル」を委嘱された経験の有無
ある場合には年度(応募者多数の場合は優先度が下がることがあります)

(9)がん対策情報センター「患者・市民パネル」を知ったきっかけ(具体的に)

(例) ○○ホームページ

(10) がん以外の病気や障害などにより事務局で配慮すべき事項があるかどうか、配慮すべき事項がある場合には、どのような配慮が必要であるのかについて

2. 応募理由書

・これまでのがんとの関わり(300字程度)

・患者・市民パネルとして活動してみたいこと(300字程度)

をお書きください。

※患者・市民パネルの活動内容につきましては、別紙募集案内の【主な活動の内容】お

よび当センターホームページの「患者・市民パネルの活動内容」をご参照ください。

http://www.ncc.go.jp/jp/cis/panel/panel01_01.html

【選出方法】

1. 応募願書、2. 応募理由書について、別途定める「がん対策情報センター患者・市民パネル選考委員会」にて選考の上、選出します。

なお、選出にあたり、性別、年齢、居住地、関連がん種、患者会への参加度、医療・福祉職に従事した経験などに偏りが生じないよう配慮しますが、選考基準・個々の選考過程・選出理由については、公表いたしません。

【募集期間・結果のお知らせ】

・募集期間は、平成 27 年 11 月 6 日(金)から平成 28 年 1 月 24 日(日)(当日消印有効)まで

・選考結果は、平成 28 年 3 月下旬頃までに応募者に郵送でお知らせします。なお、応募書類の返却はいたしませんので、ご了承ください。いただきました個人情報、選考に関わる目的にのみ使わせていただきます。

【お問い合わせ先】

国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル」事務局

E-mail: Panel-oubo@ml.res.ncc.go.jp / FAX: 03-3547-8577

電話(平日[土日祝日を除く]10時から15時): 03-3542-2511(代表)内線 1615

選考基準などに関する個別のお問い合わせにはお答えできません。

年末年始(平成 27 年 12 月 29 日から平成 28 年 1 月 3 日)は対応を休止いたします。

メンバー経験者からの声

患者として「がん情報サービス」を利用して、パネル募集の記事を見つけた事が、受身であった自分の意識を前向きに変える契機になりました。パネルに参加して、「患者の自分だからこそできること」「経験したからこそ伝えられること」があり、それがこれからの医療や社会の仕組みづくりに微力ながらも役立つと思うと、意見出しや原稿チェックにも力が入りました。「がんになったら手にとるガイド」に手記を載せて頂いた時は、読んで下さった方が、これで少しでも勇気を持って頂けたら嬉しい、と心から思いました。振り返っての思うことは、皆さん患者でありながら、とてもバイタリティがあるのに驚いたこと、そして、こうした活動に参加し、多くの方と交流することで、実は自分自身もパワーを頂いているのだということです。これから参加される皆さまも、皆さまの経験や思いを「がんになっても安心して暮らせる社会」の実現のために活かして行ってください。期待しています!!!

(愛知県 女性)

2009年にがんと診断されました。当初頭のなかは真っ白で、死が突然目の前に現れ、以来片時もそばを離れることはありませんでした。今はお友達のような関係です。何の知識も情報もなく、探すすべさえははっきりしない時に、「がん情報サービス」を見ていると精神的、がん・治療、経済的、療養・リハビリなど自分が抱えている不安に対する情報が掲載されてい

ることに気づき、有効な知識と情報を得ることが出来ました。2013年には、別のがん（転移）の手術を受けましたが、その間の患者・市民パネルとしての活動で得た知識と情報のおかげで、余裕さえ持つことが出来ました。正しいがん情報の持つ力は、抗がん剤以上に効果があります。今は、“がんとゴルフとハッピーライフ”を生きるテーマとしています。自分ががんになったら、今度は他の人のためにサポートしてあげませんか。がん情報難民、がん難民を少しでも減らすために、一緒に頑張りましょう。（埼玉県 男性）

仕事を辞めて社会とのつながりが断たれたような気がしていた時、患者・市民パネルの募集を見つけて、がんを抱えていても出来ることがあることが分かり応募しました。様々な活動をしている全国の仲間との交流で得たことは、これから生きていく上での糧となりました。サンキューバトンの動画撮影に参加したり、「がんになったら手にとるガイド」の患者の手記として自分の体験を載せていただいたりしたことなど、楽しい思い出が出来ました。（秋田県 女性）

はじめて参加した「患者・市民パネル」検討会のグループディスカッションで、がん患者や家族は、近所の方や職場の方などの身近な人にも支えられているとの結論に至りました。そこから、がん対策情報センター職員と「患者・市民パネル」の協力者との協働で「身近な人ががんになったとき」という冊子が生まれました。私はがん患者家族であり、医療従事者でもある立場での協力でした。作成時に家族と改めて話し合う機会ができましたし、完成してからは医療機関や地域で紹介することができました。現在では、医療系学生の教育にも利用させてもらっています。作成に関わることができたことが一番の思い出です。（愛知県 男性）

「患者・市民パネル」の活動を通して、がん対策情報センターをはじめとする医療者が「どのようにがん情報を作り伝えようとしているか」、「どのように患者支援を展開しているか」を理解できたことが収穫でした。それを地元の患者仲間に伝えることで、医療者との間をつなぐ一端として、わずかでもお役に立てたかと思えます。がん治療のつらさの背景には、患者・家族と医療者の相互理解の不足もあると思えます。その間をつなぐために、つらい経験を乗り越えた体験者が適役であるはずです。また次年度も素晴らしい人材が入って、「患者・市民パネル」の活動が活性化することを願っています。（千葉県 女性）

私自身、がん診断を受ける前後の期間で、誰にも相談できず苦しい思いをしてきたので、そのような人に向けた冊子「もしも、がんと言われたら」の作成に関われたことが印象に残っています。原稿へのコメント・アイデア出しなどのお手伝いは、「患者・市民パネル」だからこそできた活動でした。これからも、自分にできるペースで無理をせずに、がんでつらい思いをされている方々のお力になる活動ができればと思っています。（東京都 女性）